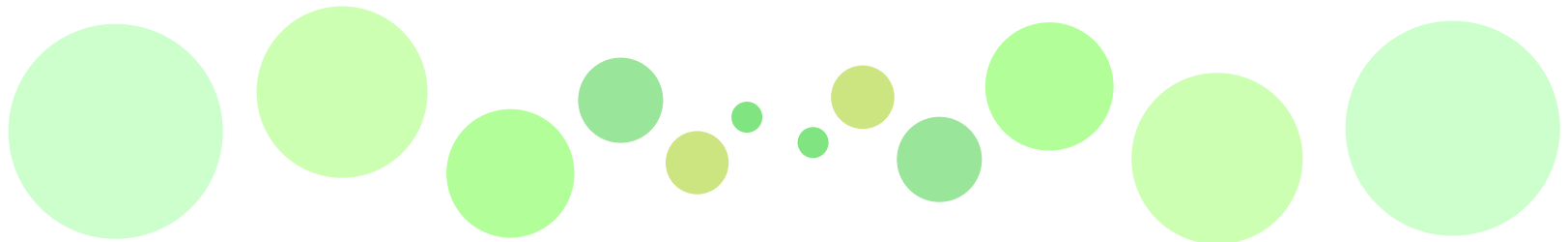


---

# ゆうばり共生型ファームの取り組みについて

一般社団法人らぶらす  
安齊 尚朋



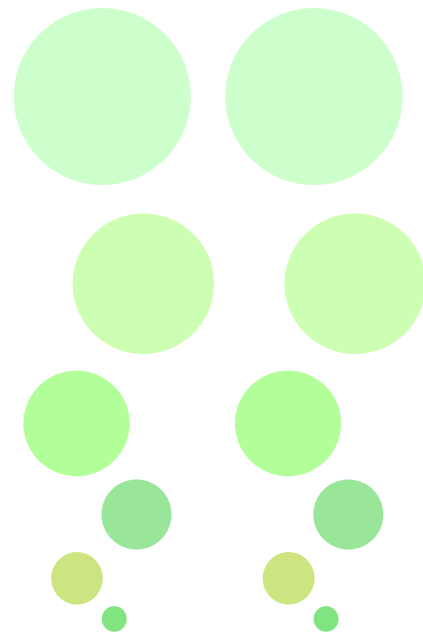
# らぶらすの理念

- どんなに重い障害を持っていても生涯地域で暮らせるまちづくり
- たくさんの人が集まれる拠点づくり

「らぶらす」とは？

La place フランス語で

「広場」「人が集まる場所」



# 現在のらぶらすの事業

## ゆうばりはまなす会館

- ・指定管理
- ・希望の杜送迎委託
- ・就労継続支援B型  
(さぽーとセンターシューパロ)
- ・放課後等デイサービス  
(からころ)
- ・児童発達支援  
(からころ)
- ・子育て支援

## 旧夕張小学校

- ・就労継続支援A型  
(ゆうばり共生型ファーム)
- ・ファームカフェらぶらす
- ・農業、食品加工
- ・貸し事務所
- ・地域交流スペース
- ・子育て支援スペース
- ・塾

## 夕張駅

- ・委託管理
- ・夕張観光案内  
センター

## 石炭博物館

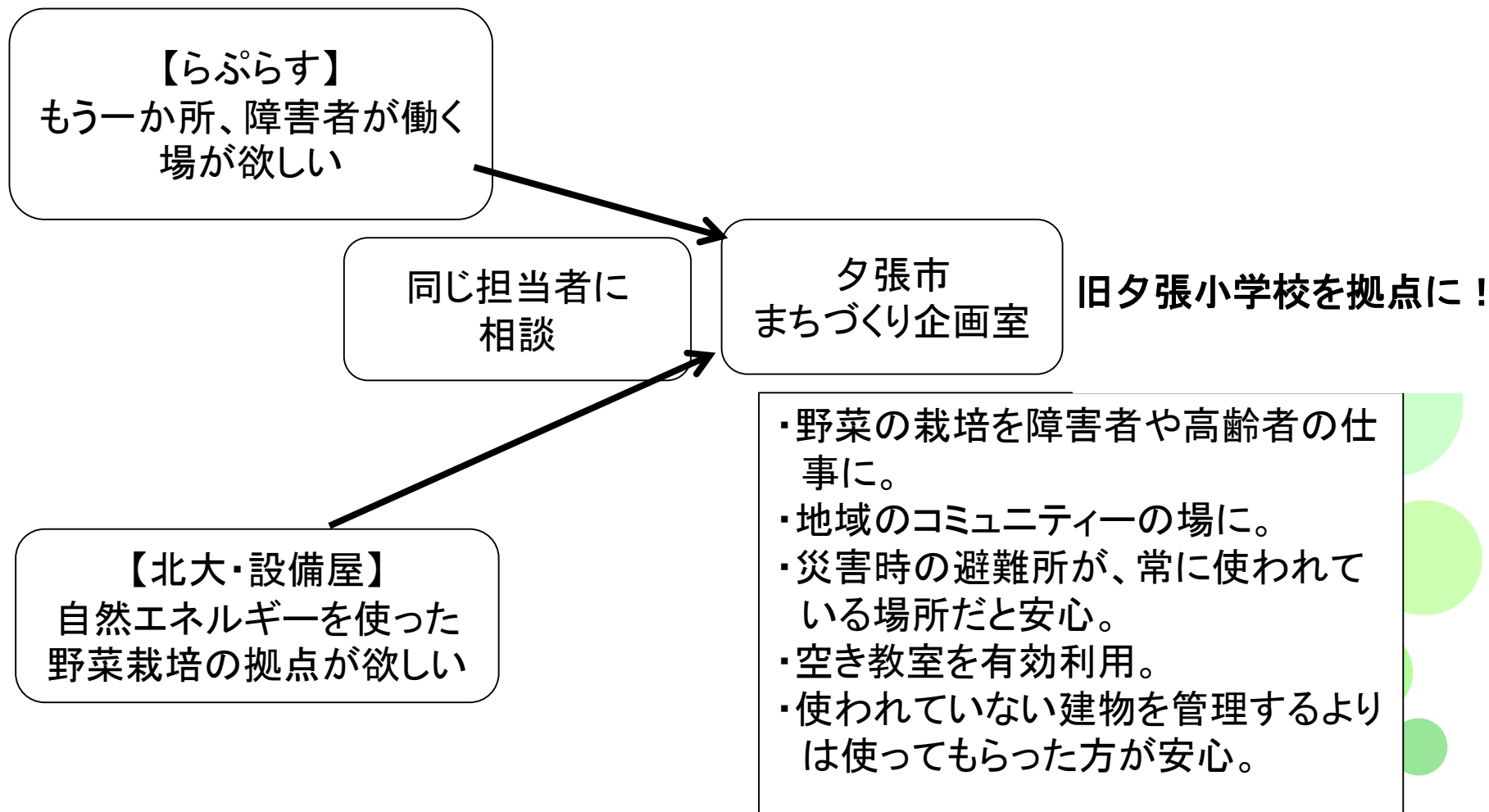
- ・委託管理

## らぶらすとして独立

- 平成21年8月よりゆうゆうの事業として「ゆうばりはまなす会館」を拠点に事業スタート。
- 平成24年4月20日、「一般社団法人らぶらす」の登記完了
- 平成24年6月1日より今までの事業をらぶらすとして継続



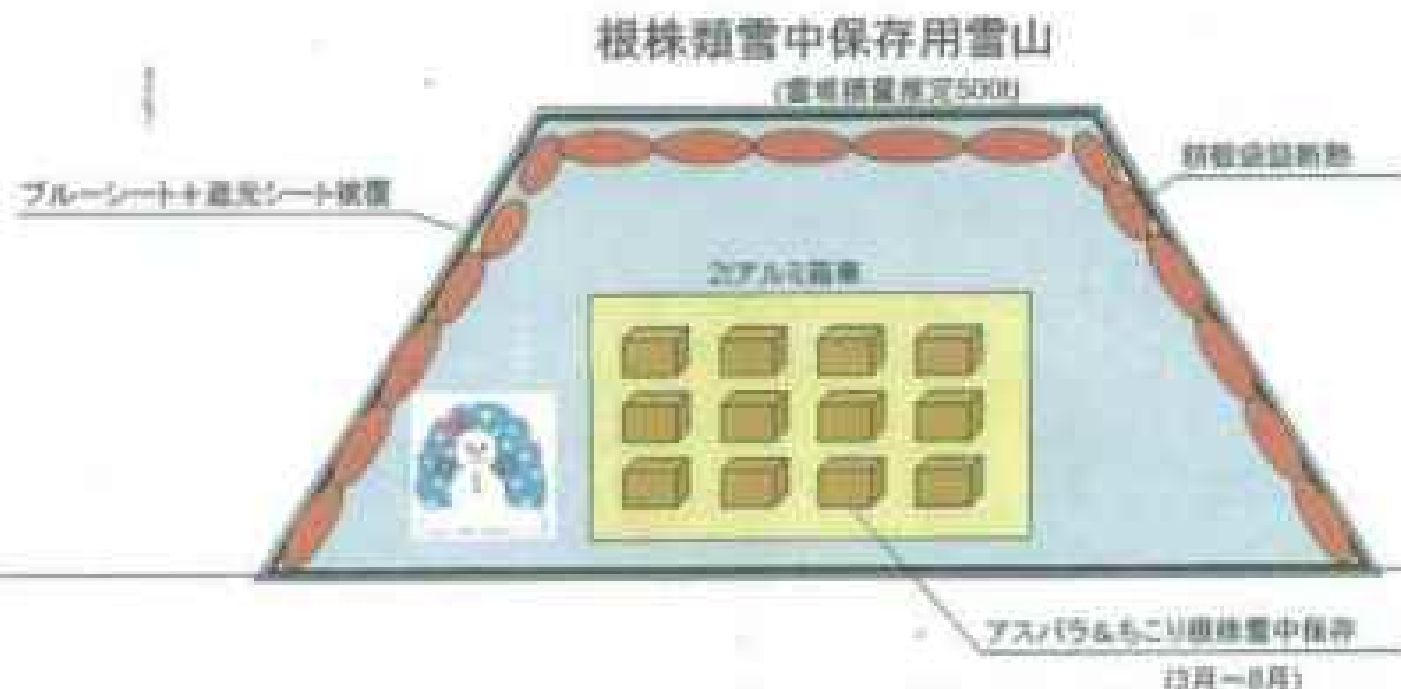
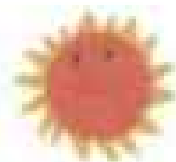
# はまなす会館での就労B事業が手狭になってきたので



# 自然エネルギーを利用した野菜栽培システム



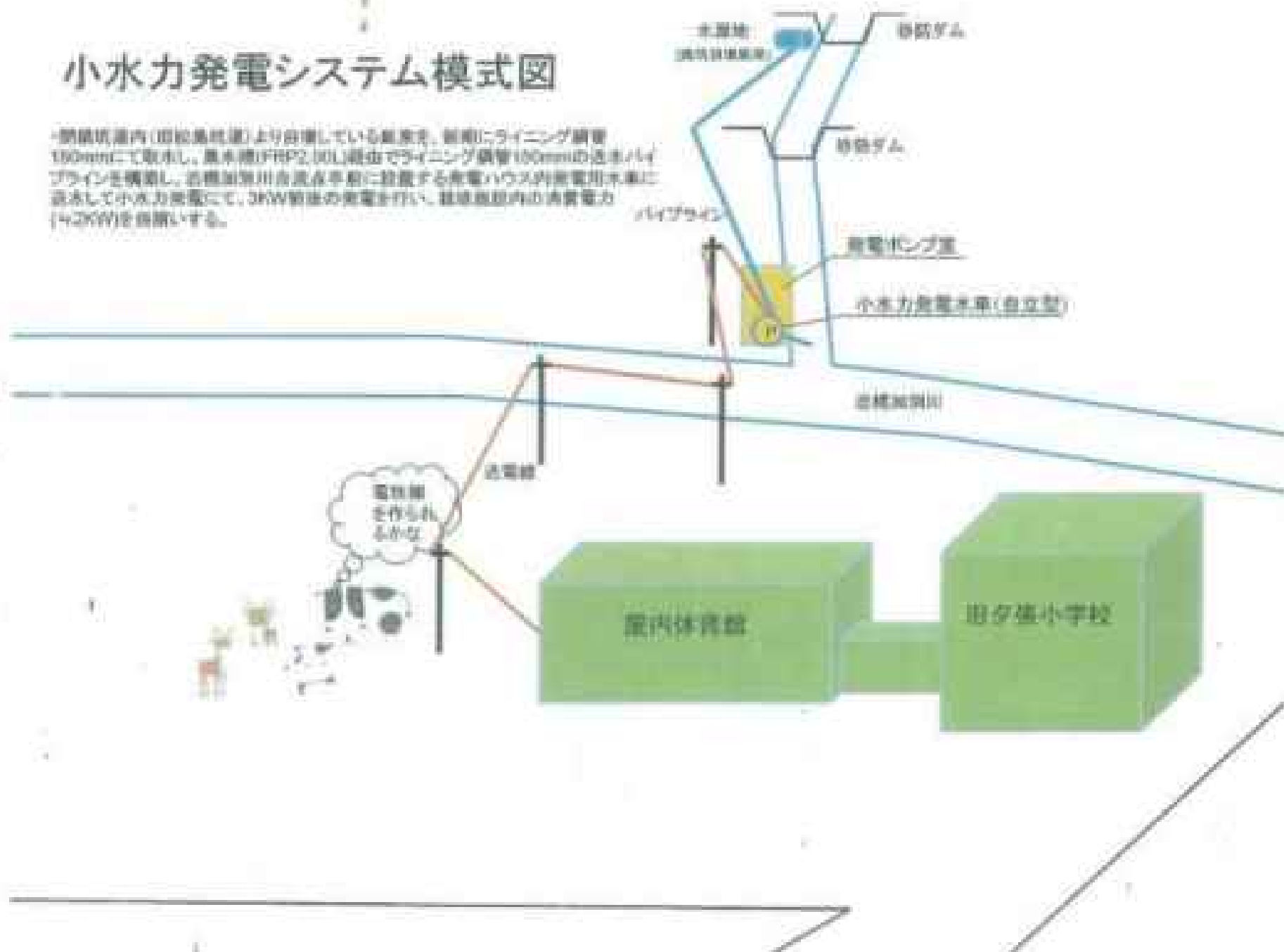
# 根株類長期雪山 雪中保存模式図



・12月下旬からアスパラ根株ももこりの根株を雪中アルミ箱車内に格納し、7月20日前後に半数を雪中より取出し腐り、半数を8月20日前後に取出し伏せ込み促成栽培を行うもので長期保存用として設置の地。夕張の雪を最大限活用している。

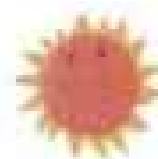
# 小水力発電システム模式図

一閉鎖坑内(閉鎖集水域)より自噴している湧水を、斜面にライニング鋼管150mmにて取水し、取水口FRP2.0L径由でライニング鋼管150mmの送水パイプラインを構築し、送水加勢川合流点手前を設置する発電ハウス内発電用ホースに放水して小水力発電にて、30W前後の発電を行い、送水加勢川内の消費電力(4.20W)を供給する。

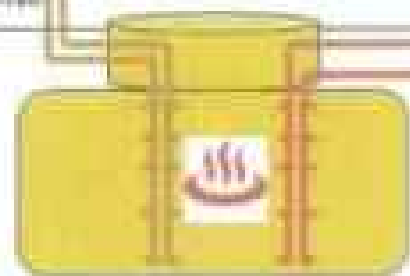




# 堆肥発酵熱温水暖房システム模式図



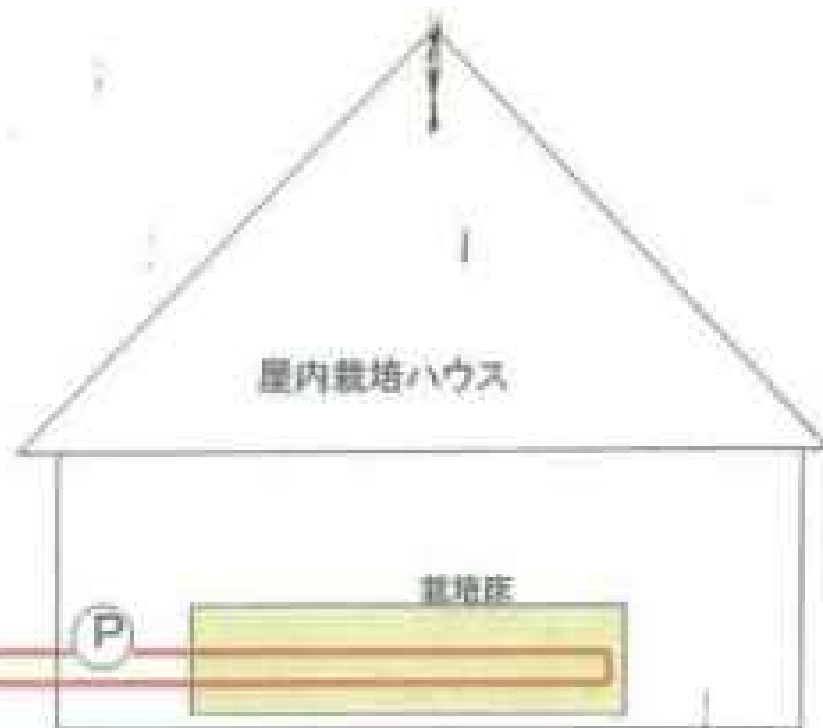
堆肥発酵熱製造ユニット



埋設型貯湯槽  
FRP製1,000L

GL

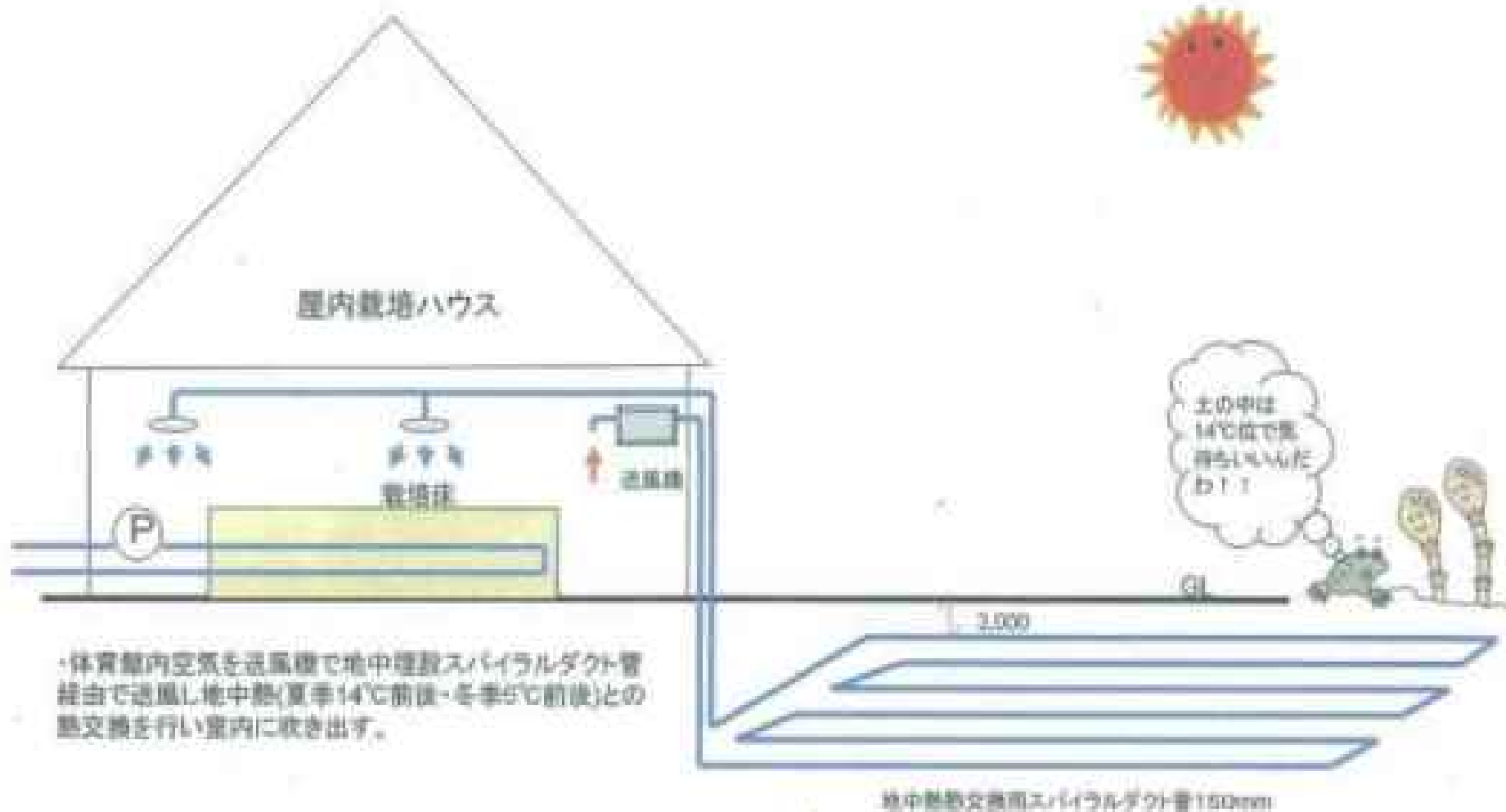
二次側



・堆肥発酵熱製造ユニット一次側熱交換コイルにて貯湯槽内部の水を温めて40℃前後の温水を作る。二次側循環ポンプにて各所栽培床内循環パイプに30℃前後の温水を循環し、温度センサーにて温度管理を行う。一次側システム配管以外は暖・冷房システム共有型となっているのでバルブの切替にて夏場は電冷房システムで冷暖運転を行う。

# 地中熱熱交換送風システム模式図

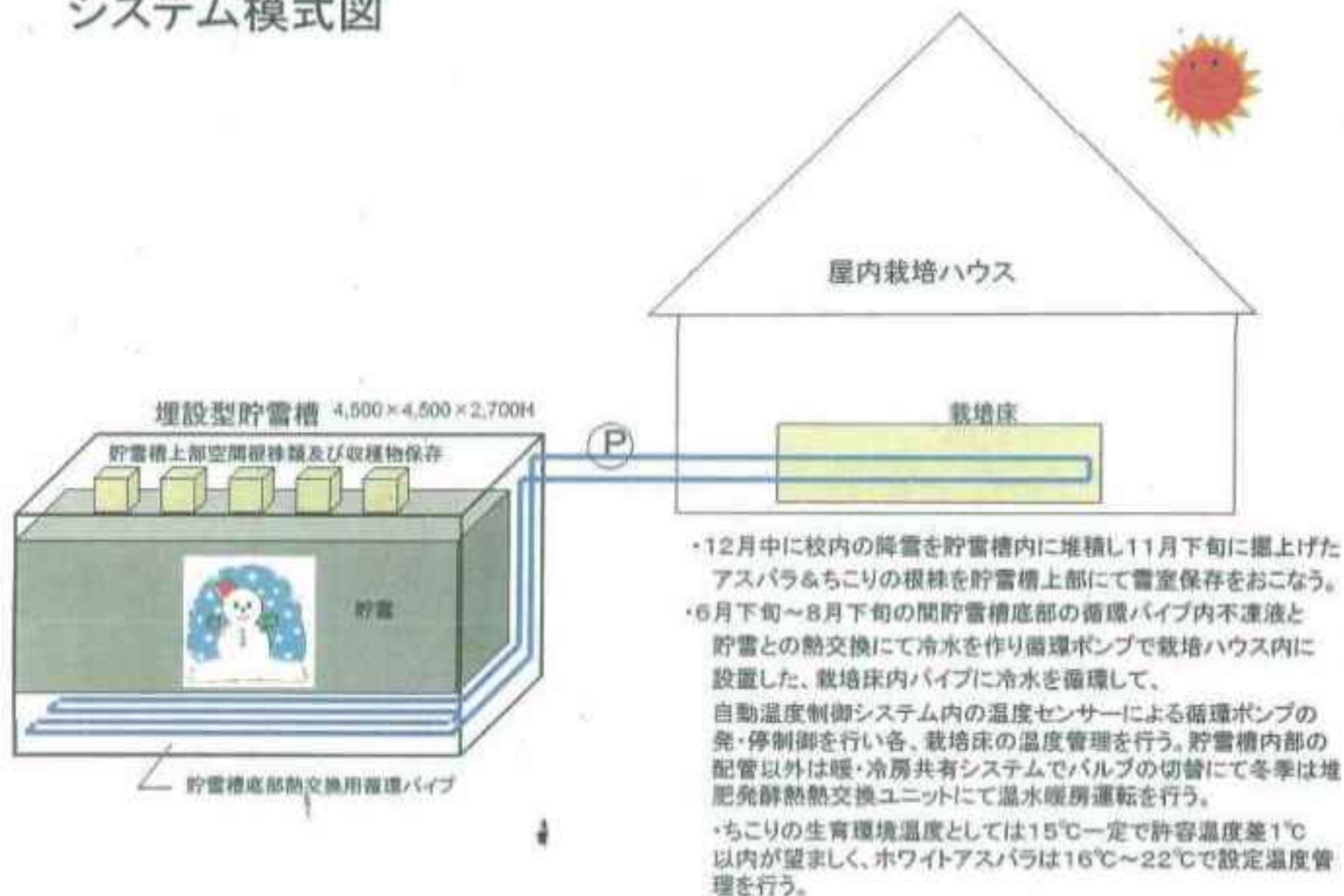
(屋内栽培ハウス)



・体育館内空気を送風機で地中埋設スパイラルダクト管経由で送風し地中熱(夏季14℃前後・冬季5℃前後)との熱交換を行い室内に吹き出す。

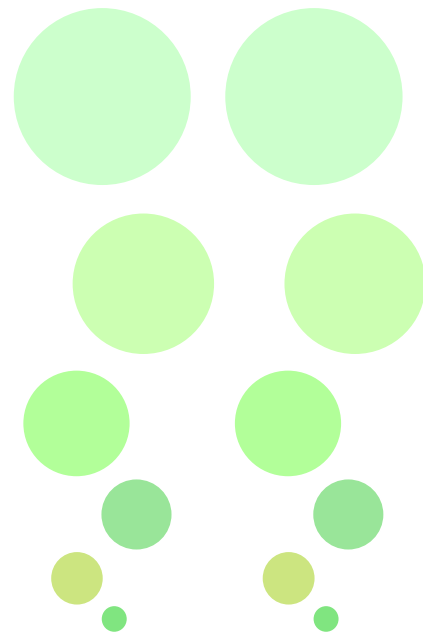
地中熱熱交換用スパイラルダクト管150mm

# 埋設型貯雪槽雪冷房 システム模式図



# 人が集まれる場所を作ろう

- ・障がいを持つ人の働く場所
- ・市民の憩いの場
- ・親子で遊びに来れる場所
- ・ネットがあれば仕事ができる人のための場所
- ・貸事務所
- ・高齢者の生きがいづくりの場
- ・サークル活動、研修会場等



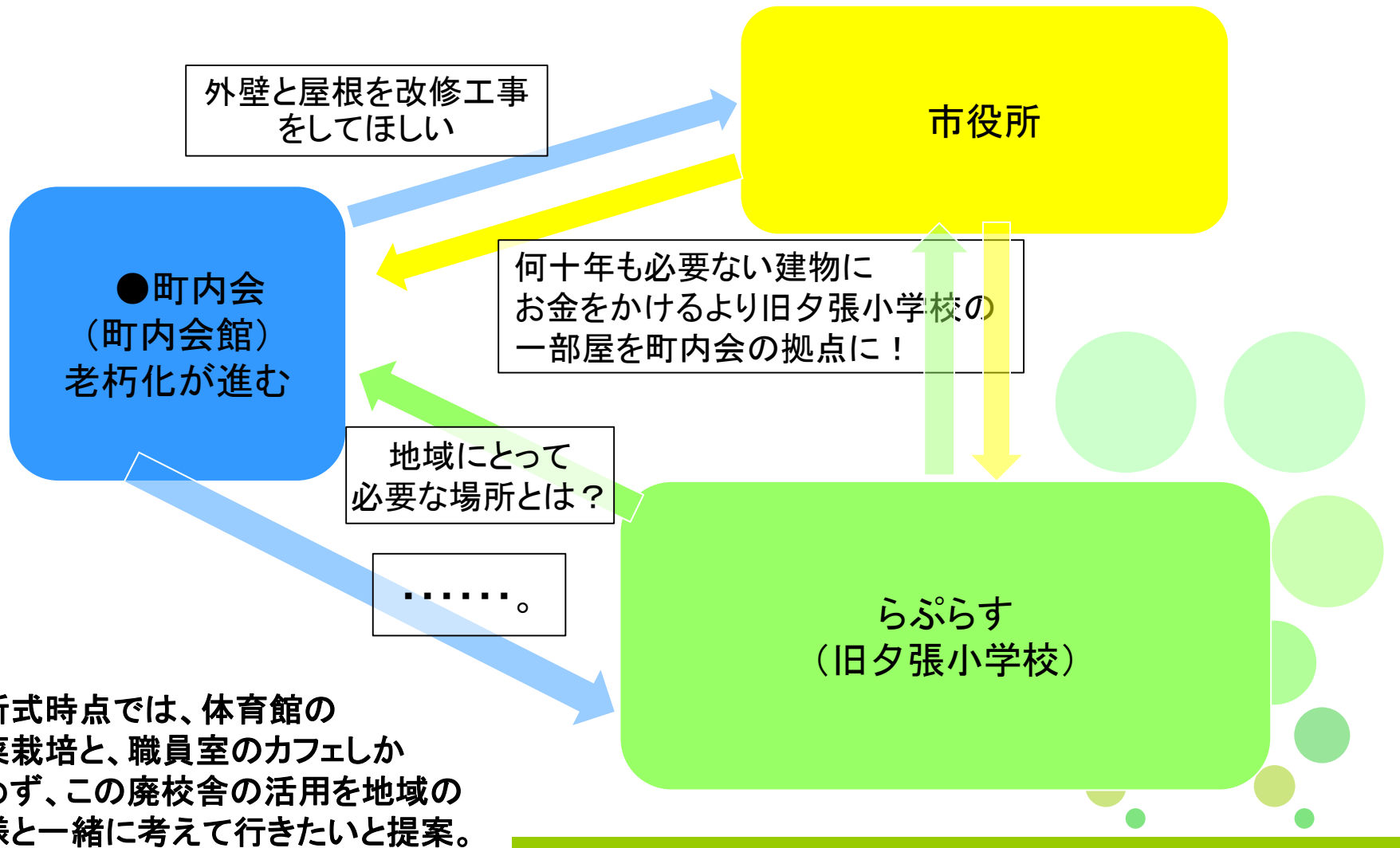
平成26年1月



# 平成26年2月16日 開所式

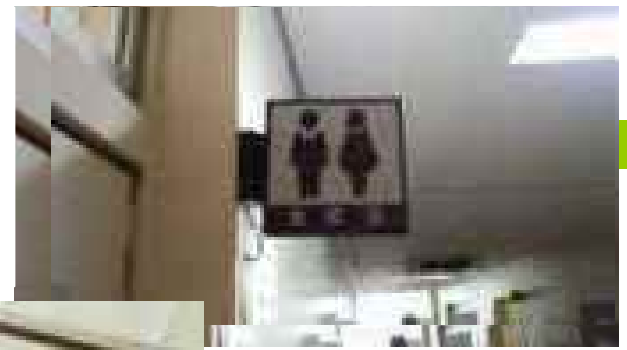


# 町内会とお話合い



## 【カフェの様子】

最初は一品メニューだったが、  
現在はランチバイキング

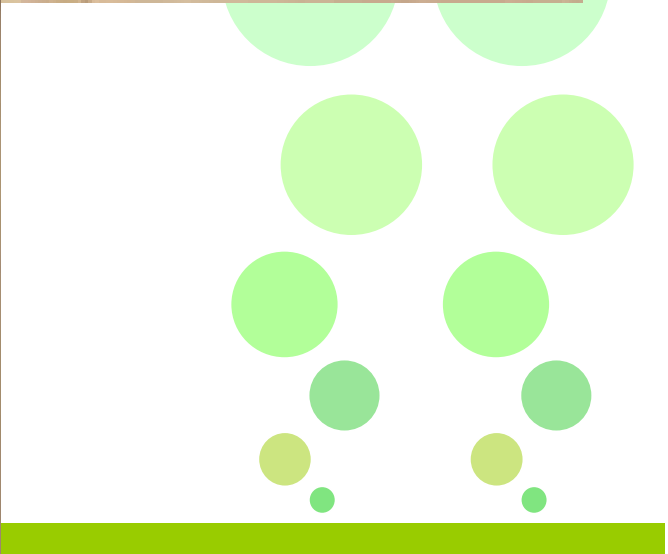




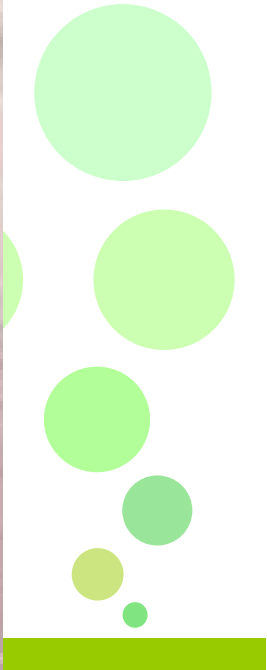
# ランチバイキング



# みんなのとしょかん



# 体育館の様子



# 廃校がこんな場所に

1階は様々な地域コミュニティーの場として活用！

元トイレ。色々とうわさがあつたトイレ。現在は東京のアーティストがお風呂にしようとしています。

- ・会議、研修会場
- ・サークル活動
- ・ボイスレッスン
- ・塾
- ・映画祭上映会場 など

子育てスペース  
(元保健室・会議室)

元: 体育館  
現: 野菜栽培場

月2回、カイロプラクティックも来ます

多目的室  
(元視聴覚室)

てらっこ屋

調理室

(元校長室)

## 【自然エネルギーでの野菜栽培】

- ・地中熱熱交換
- ・堆肥発酵熱
- ・雪冷熱
- ・雪室保存
- ・小水力発電

元→職員室  
現→食飲室

・カフェらぶらす  
・みんなの  
としょかん

加工室  
(元配膳室)

トイレ

事務所

たくさんの方が出入りする場所！

# 廃校がこんな場所に

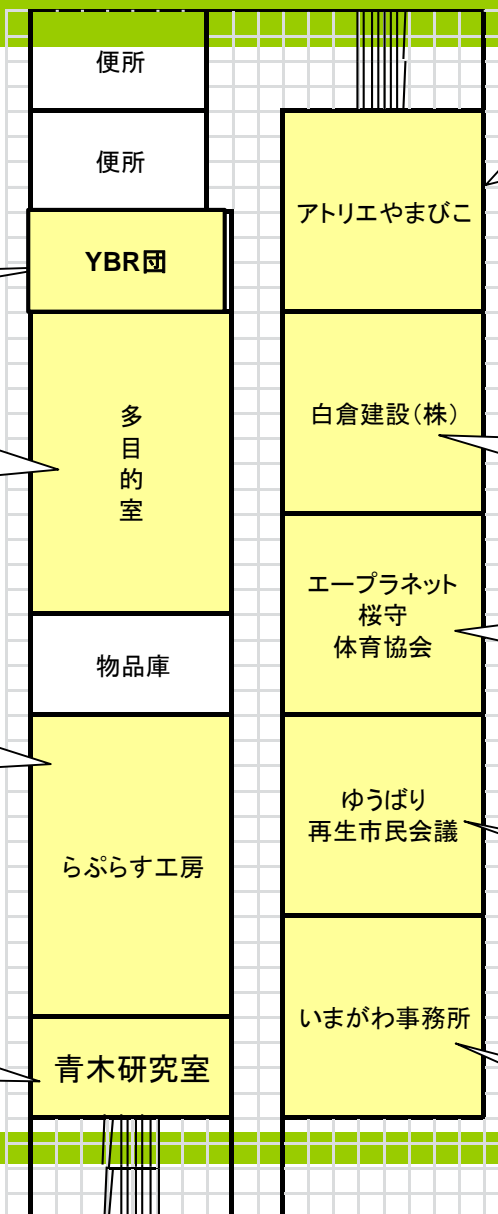
2階はいろんな事業所  
・企業の事務所・アトリエなど

イベント等で活躍する市内の若者の集まり

高校生勉強合宿、映画祭の上映会場、東京在住アーティストの夕張での活動拠点

らぶらすを応援して下さる保護者・地域の方で行う陶芸教室。

夕張市の歴史を研究する青木先生の研究室



はり・灸治療院を運営する市内の芸術家のアトリエ。

社長のプライベートルーム？  
ゴルフ練習場？

イベント会社  
桜の植樹活動を行う市民団体  
夕張市の体育協会(NPO化を目指す)

まちづくり活動を行う市民団体

司法書士・行政書士、不動産会社、市議会議員さんの事務所



発達障害の理解と  
支援研修会

夕張観光ガイド  
養成講座





キッズルーム

てらっこ屋



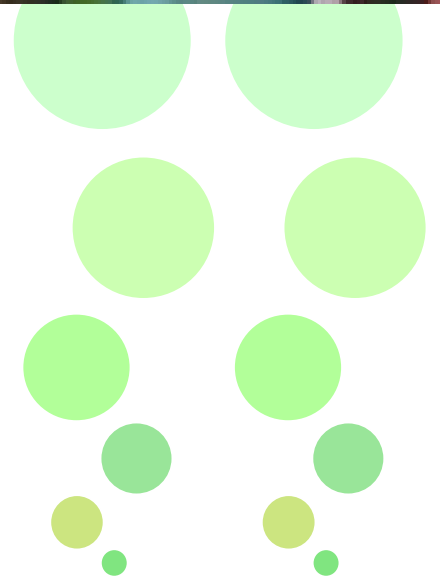


## こどもレストラン





# サトシンさんイベント



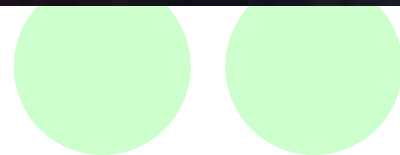


## ゆうばり国際ファンタスティック映画祭





映画祭 イグルーパーティー





## 地域の方とのイベント





## 壁画



# もっと活躍できる市民がいるのでは・・・？

- ・イチゴパック詰めボランティア
- ・おにぎりボランティア
- ・除雪ボランティア

高齢者の  
生きがい作り  
活躍の場作り

【夕張のことを学ぶ場所】

- ・小中高生の学びの場
- ・高齢者に限らず市民が自分のまちの魅力を再発見し、誇りを持って語れるまちづくり

夕張駅・・・夕張観光案内センター委託管理

【夕張観光ガイド養成講座】実施

- ・市民による観光客への案内、おもてなし
- ・30名以上が受講し、10名が全課程修了。
- ・現在ガイド登録が6名。
- ・今年12月に第2回を開催予定。

石炭博物館・・・

現在開館日は2名が常駐

- ・親の年金で生活している50代
- ・就労に苦勞しており、生活保護を受けずに頑張っている40代

高齢者や夕張生まれ・育ち、よそ者でも夕張に詳しい人の活躍の場を作ろう！

夕張の歴史と文化遺産を守り為に、

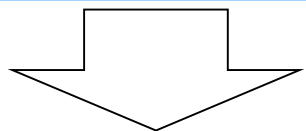
- ・生活困窮者自立支援法の対象者の受け入れ先として
- ・接客や清掃など、障害を持つ方の働く場所として

将来的には市民がガイドとして、石炭博物館を案内するような場所にしたい。

# 夕張で活躍する会

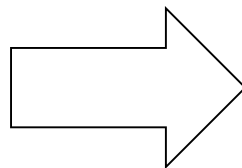
年齢、世代、性別、国籍など問わず、自分の得意なこと、出来ることで地域のためになるような活動を行う。

(草刈、除雪、子ども一時預かり、お皿洗い、図書整理、犬の散歩、運転手、花壇の手入れ、独居高齢者のお話し相手、イベントのテント張り、などなど…)

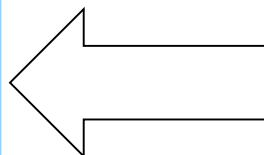


## 【ボランティアポイントカード】

1回の活躍で1個のスタンプ。30個たまると地域の飲食店の500円券として利用できる。



支え合う市民の力が、市内の飲食店の売り上げにも貢献できる！！



# 活躍する人たち





# 夕張の共生型事業は夕張の歴史から？

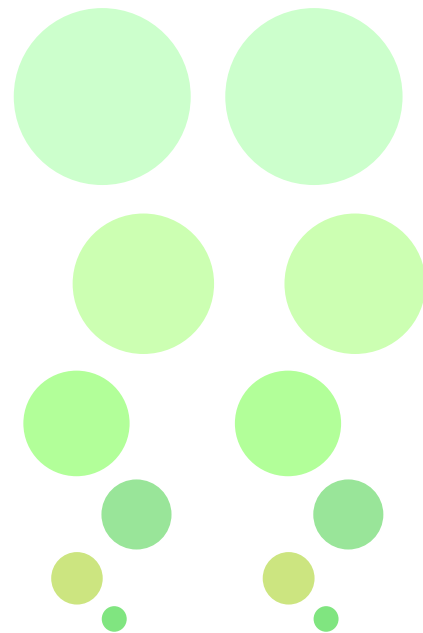
## 「炭鉱の歴史 友子制度」

日本の伝統的な鉱山労働者の組織であった「友子」制度。東北地方の鉱山労働者の移住によって、北海道の炭鉱へと移入されました。3年余の技術習得期間を経て、先輩の友子が立ち会った「取立式」で親分と子分の盃を交わして「友子」となり、はじめて一人前の坑夫として認められるという、独特の作法によって運営されてきました。

相互扶助の精神にたって共済と技術伝承を目的とする自治的な「友子」制度は、社会保障と教育が十分ではなかった戦前期に、炭鉱社会のセーフティネットとしてしっかりと根付いていました。戦後に入ると、労働組合の結成や社会保険制度の充実、坑内労働の機械化によって急激に姿を消し、1970年代初頭に夕張で行われた取立式を最後に役割を終えました。

## 共生型とは？

単純に「高齢者」「障害者」「こども」を同じ場所に集めて、人が集まる場所を作ることによって「共生型」になるのではなく、支え合う仕組み、一人一人が役割を持つ事が必要なのではないだろうか？



## 共生型とは・・・？

- 実はあまり「共生型」という言葉、拠点にこだわりは無い。

一つの建物にいろいろな人を集めて共生型と理念を掲げる事よりも地域にはいろいろな人が普通に暮らしていて、「あの人は障害者だからこうした方が良い」「あの人は認知症だからこういうサービスが必要」ではなく、そういう人たちが暮らしていること自体が特別ではなく、当たり前に見える地域・社会が共生型ではないかと思う。暮らし、地域そのものが共生型になって行けたらと思う。

# 自然との共生





鹿、キツネ、ねずみ、カラス、蜂との共生・・・・。